

Golden Tree iArbitrage Ver1.01

創造の館 <http://souzouno-yakata.com/>

Copyright Since 2014～

概要

本ソフトは GoldenTree Arbitrage Professional をインジケータにしたものです。2つの通貨ペアのサヤを計算して表示するインジケータです。複雑なサヤの計算と表示、ならびに注文ロット数の算出まで全自動で行います。売買サインの指示通りに注文を出すだけで、これまで実行が難しかった高度な裁定取引を誰でも簡単に行うことができます。

本ソフトには、次の特徴があります。

1. 3種類の売買アルゴリズム

ドンチャンブレイクアウトの順張、逆張り、逆張り反対ラインタッチ決裁を搭載。市場に合わせて最適な手段を選択できます。

2. 値動きの変動と円評価額の自動補正

相関が同じでも通貨ペアによって振幅や円評価額に違いがあるのが普通です。これらを正しく補正しなければ同じ動きのときサヤがゼロになりません。例えば通貨 A が通貨 B より 2 倍大きな変動をする場合、B の変動幅を 2 倍にして計算したサヤをチャートに表示します。注文時は B のロット数を 2 倍にすることでチャート通りの取引ができます。

pip あたり変動価格が違う場合はさらに補正します。例えば通貨 A が 1pip あたり 10 円、通貨 B が 1pip あたり 20 円の場合は A の注文ロット数を 2 倍にします。

3. 相関係数の計算と表示

取引している通貨ペアの相関係数を自動計算して表示します。

4. パラメータの自動プリセット

最適化レポートの MagicNumber を入力するだけでパラメータを自動的にプリセットできます。

最適化レポートは Arbitrage と共通です。

5. CFD 対応

ほとんどのブローカーが提供する CFD 商品の取引に対応しています。

目次

概要	1
1. 裁定取引の仕組み	4
サヤの計算と取引のタイミング	4
通貨間の変動率補正	4
円価格比の補正	5
補正量と補正結果のモニタ	5
長期トレードのリスク	5
2. 商品について	6
商品の構成	6
販売について	6
買い替え、バージョンアップ	6
ライセンス規約	6
動作環境 (対応サーバ)	6
サポート	6
作者・送金先	8
注意事項・免責	8
3. 準備	9
パソコン	9
WindowsUpdate の自動更新を止める	9
ファイルのコピー	9
バージョンアップ	9
4. 実行	10
実行方法	10
実行画面	11
チャート表示	13
パラメータの編集方法	13

5. Q&A	14
6. バージョンの履歴	14
(付録1) パラメータの説明	14
=== Fund Management ===	16
=== System Setting ===	18
=== Stop & Limit Setting ===	19
=== Advanced Setting ===	19
(付録2) エラーリスト	22

1. 裁定取引の仕組み

サヤの計算と取引のタイミング

本ソフトでは2つの通貨ペア(AとB)のサヤであるCのラインを計算し、その最高値と最安値に High,Lo(HL)ラインを引いてこのラインのブレイクアウトで順張りもしくは逆張りの取引を行います。図1は逆張り(Algorithm =2)の場合の動作イメージです。

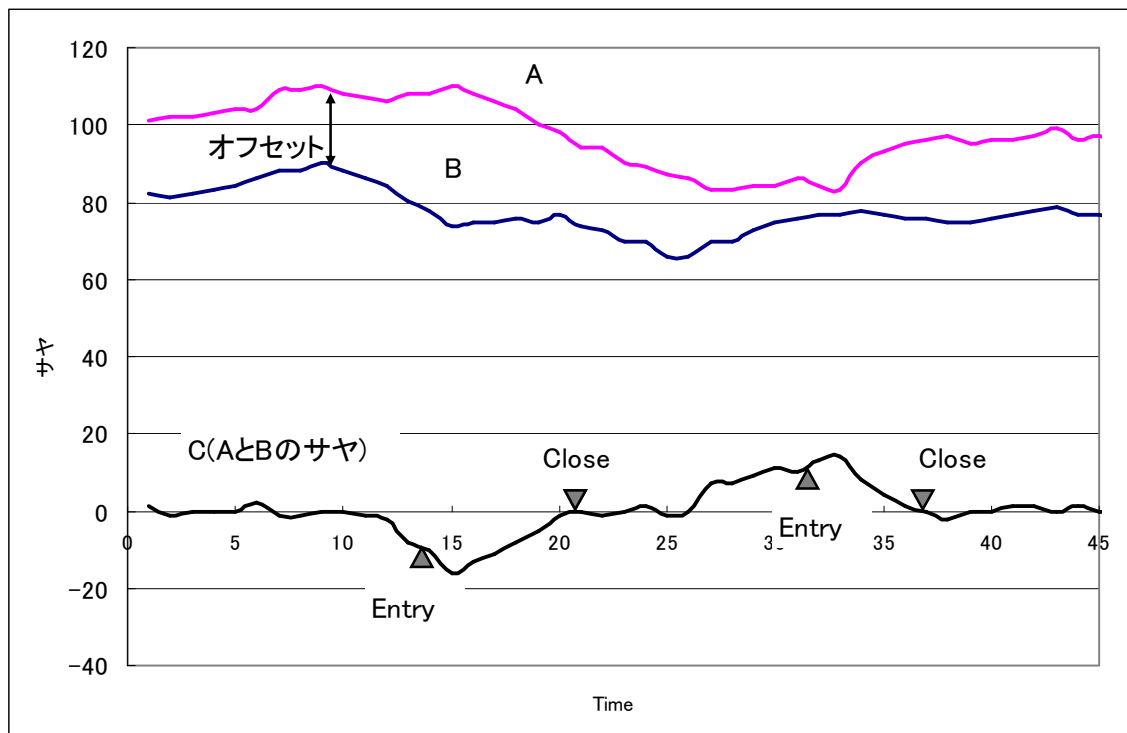


図1 裁定取引の基本動作

通貨間の変動率補正

本ソフトで取引する通貨ペアはお互い相関の高いことが前提となりますが、お互い 100%近い値動きをする通貨ペアでも変動率(振幅の大きさ)が違うことがあり、この場合変動率が低いほうのロット数を増やしておかないとサヤがゼロになりません。

本ソフトではこの変動補正値を自動計算しエントリーするロット数をつねに自動補正します。バックテストをすると変動率の瞬時補正量が画面に表示されますのでこの結果を参考に固定値を与えることもできます。(Weight パラメータ)

円価格比の補正

変動率を補正して振幅を揃えても円に換算した時の評価額が等しくない場合があります。この違いはチャート上に表示される YEN/pip 値で確認できます。この値が異なる場合はその比率でロット数をさらに修正します。これによって 2 通貨間の値動きが等しいとき(サヤがゼロのとき)に円の評価額も等しく変動する状態(差額ゼロ)を実現しています。

補正量と補正結果のモニタ

2市場の変動率をもとに計算した瞬時補正量はチャート上の Weight 値で確認できます。

変動率と円価格比を補正して最終的に決定された2市場のロット数と、そのロット数による1トレードのリスクがそれぞれ LotSize, Risk/day としてチャート上で確認できます。2市場の Risk/day(円評価額)に近いほど補正がうまくできていることになります。

誤差の小さな補正を行うために必要なロット数の目安は 5 以上です。つねにこの条件を満足するよう十分な資金を準備してください。

長期トレードのリスク

変動率と円価格差は上記の自動調整機能によりつねに最適化されていますが、建玉の数量を増減する機能はありません。一旦建玉を持つと Weight 値は固定されますので変動率や円価格差の補正值がエントリーした当初の値から乖離してきます。

長期トレードを行う場合はバックテストを参考に Weight パラメータに固定値を与えることを検討してください。

2. 商品について

商品の構成

- (1)GoldenTree iArbitrage 本体(.ex4)
- (2)取扱説明書(本書)
- (3)最適化レポート(別途)

最適化レポートは Arbitrage と共通です。都度更新していますので最新版を下記から入手してください

<http://souzouno-yakata.com/2013/11/30/2684/>

販売について

本ソフトの販売形態は法律の関係上、書籍と同じ「売り切り」で、購入後のサポートや登録行為は一切ありません。

買い替え、バージョンアップ

同一商品のバージョンアップは原則無料です。

ライセンス規約

- (1)本ソフトを使って同時にトレードできる口座は3つまでです※。
 - (3)商品や付属のドキュメントを複製して第三者に譲渡したり、インターネットなどで公開することを禁止します。
 - (4)後述の「注意事項・免責」に関するすべてに同意した方のみ、ご利用になれます。
- ※MT4 を違う場所にインストールすることで1台のパソコンを使って複数の口座でトレードすることができます。

動作環境(対応サーバ)

基本的に制限はありません。取引前にデモ口座で1pip あたりの日本円(YEN/pip)と注文ロット(Lots)が正しく表示され、注文が正しく機能することを確認してください。

うまく機能しない場合は調査しますので、お気軽に作者にご相談ください。

サポート

本ソフトは「売り切り」です。会員登録はなく購入後のサポートも一切ありません。バグが見つかったも、作者は改善の義務を負いません。ご質問があれば、無料版を試用中にお願います。

なお、ご意見、ご要望、バグ報告は大歓迎です。今後の改良の参考にさせていただきますので、

遠慮なくお寄せください。

作者・送金先

ご購入は以下のサイトからお願いいたします。

<http://souzouno-yakata.com/2016/02/28/7506/>

買い替え、追加ライセンスのお申し込み、一覧にない商品のお問い合わせはこちらからお願いいたします。

support1301@souzouno-yakata.com

注意事項・免責

必ず下記を熟読いただいて、同意いただける方のみご使用ください。

- (1) 本ソフトは、すべて利用者の責任においてご使用ください。本ソフトを利用して生じたいかなる損害に対しても、作者は一切の責任を負いません。
- (2) 本ソフトにはバグがある可能性があり、正しく動作する保障はありません。作者は、バグや不具合に関する改善の義務を負いません。
- (3) 本ソフトを逆アセンブルしたり改ざん、クラックしてはいけません。
- (4) 設定パラメータはバージョンアップの際に名称変更、廃止することがあります。
- (5) 販売数量を制限したり、当方の都合により販売終了する場合があります。
- (6) ライセンス規約や販売価格は予告無く改定することがあります。

3. 準備

パソコン

24 時間ネットに接続できる環境が必要で、これはバッテリーを内蔵した省電力型のノート(ネットブックなど)が適しています。安全に取引をするため、普段お使いのパソコンとは別に取引専用のパソコンを用意いただくことをお勧めします。

WindowsUpdate の自動更新を止める

WindowsUpdate を設定していると更新プログラムを勝手にダウンロードして再起動してしまう場合があります。更新のチェックだけ有効にしておき、ダウンロードや再起動は市場が閉じている日曜日に手動で行うようにしておきます。

具体的にはコントロールパネルの「自動更新」を開いて、「更新を通知するのみで、自動的名ダウンロードまたはインストールを実行しない」にチェックを入れます。

ファイルのコピー

商品に添付されている ex4 ファイルを¥MQL4¥Indicators¥フォルダにコピーしておきます。デフォルトは C:¥Program Files¥〈MT4 のインストールフォルダ〉 ¥MQL4¥ Indicators です。

コピーしたら MT4 を起動して、ナビゲータウインドウの Indicators の下に本ソフトが登録されていることを確認してください。

注:

本書は MT4 の自身の使い方は割愛しています。MT4 に付属のヘルプか、MT4 の配布元が提供する取説等をご参照ください。

バージョンアップ

- (1)MT4 を終了した状態で新しい ex4 ファイルを Indicators フォルダに上書きコピーします。
- (2)実行時に表示されるバージョン番号とパラメータが正しく反映されているか確認します。

4. 実行

実行方法

(1)取引するチャート(2市場のうち一方)を表示させて、時間足を決めて本ソフトをチャート上に Drag&Drop します。このチャートを「カレントチャート」と呼びます。時間足は 4 時間足(H4)がお勧めです。

(2)本ソフトをチャートに Drop すると「パラメータの入力」タブが表示されます。少なくとも MagicNumber、Pair1 について入力が必要です。パラメータの設定は別途配布している最適化レポートを参考にしてください。

MagicNumber は設定した値のほか、設定値+1の値をシステムが使いますので重複しないようご注意ください。たとえば 10 を設定したら 11 は使わないでください。

システムで Pair1 はカレントチャートとペアにする(同時取引する)通貨を「EURAUD」「JSDJPY」などと入力します。ブローカー固有の追加文字は入れないでください(USDJPY.fxf の場合は「.fxf」が追加文字になります)。パラメータの詳細は付録1をご参照ください。

<パラメータのオートセットについて>

別途配布されている最適化レポートの MagicNumber を入力するとパラメータが自動プリセットされます。プリセットが成功すると MagicNumber の隣に”*”マークが表示されます。

クイックスタートガイドに手順が記載されています。下記からダウンロードしてください。

<http://souzouno-yakata.com/2013/11/30/2684/>

実行画面



図 5-1 実行画面 (実際のものと多少異なる場合があります)

基本的に Arbitrage と同じです。

EA のステータス

-- Status OK --

損益に問題なく、エントリーも可能なことを示します。

** Waitting **

トレードに必要な情報を読み取れていないことを示します。

** Sell ReEntry Waitting ** ** Buy ReEntry Waitting **

その方向の逆張りエントリーを禁止中であることを示します。この状態は RevReEntryBandp パラメータの設定値によって決まります。

相関係数(CCF)

EntryN 期間における相関係数を示します。

カレントチャートの情報、ペア通貨の情報

設定されている通貨、ユニットサイズ、ロットサイズ

円/pip 値、Risk/day=トレードあたりのリスク pip、括弧内は日本円の換算値

ユニットサイズ、ロットサイズは正規化計算後の値で、ここの表示値でエントリーが執行されます。
Risk/day(pip)は現行チャートにおける 20 日間の ATR を元に計算した「目安の値」です。

日本円の換算値は $\text{UnitSize} \times \text{YEN/pip} \times \text{Risk/day}$ です。

変動補正率(Weight)

2市場の値動きのリスクをゼロにするための瞬時補正量／設定値 単位は(%)です。

トレードに適用される設定値は Weight パラメータによって与えられます。Weight に固定値を与えた場合はこれを表示し、瞬時値と比較できます。Weight に平均値(0)を設定した場合は平均値が表示されます。

サヤの価格、HL ラインの位置、サヤの幅

サヤの価格、HL ラインの位置、幅を(pip)で表示します。計算上、マイナス値になることがあります
が間違いではありません。これらの情報はチャート画面の見やすい位置に表示されます。

チャート表示

サヤの価格

黄色のラインです。このラインが H、L チャンネルのいずれかのラインを超えたときに逆張りのエントリーを行い、反対側のチャンネルラインをオーバ、もしくは決済ライン(後述)にタッチすると決済します。

H、L チャンネルライン

トレードを開始すると EntryN パラメータに基づくブレイクアウトのチャンネルラインが「緑」で表示されます。高値のチャンネルラインを「Hチャンネルライン」、安値のチャンネルラインを「Lチャンネルライン」と呼びます。

ブレイクアウト後、このチャンネルラインは決済されるまで固定されます。

決済ライン

エントリーすると、CloseNp パラメータに基づく決済ラインが「赤」で表示され、トレンドの上昇と共に移動していきます。このラインは逆行しません。価格がこのラインをクロスすることで決済が実行されます。

パラメータの編集方法

チャート上の黄色のラインをダブルクリックすると設定ダイアログが起動します。

5. Q&A

6. バージョンの履歴

2016/02/28 Ver1.01 公開

2014/06/01 Ver1.00 公開

(付録1)パラメータの説明

パラメータで入力できる数字はすべて正の整数(0～999,999,999)ですが、大きな数値にほとんど意味を持ちません。足数の上限値は 1000 程度、ゲインの上限値は 100 程度が上限になるようスケールリングされています。

説明に範囲の指定がある場合はそれを守ってください。逸脱した設定をすると予期せぬ動作をする場合があります。

パラメータはバージョンによって名称変更したり、廃止する場合があります。

MagicNumber=0 (0～999,999,999) マジックナンバー

EAごとの注文や変数を区別するための整数のラベル。9桁の正の整数が使えます。マジックナンバーは重複しない数値を必ず設定する必要があります。

ペア通貨のマジックナンバーはカレントチャートのマジックナンバー+1の値が自動的に割り当てられますので、同時に2つのマジックナンバーを消費します。設定する数値は偶数に限定するなどルールを決めておくことをお勧めします。

注意:

トレード中の変数はマジックナンバーで識別されたグローバル変数で記憶していますので、過去に使ったマジックナンバーを別の市場で再使用すると予期せぬ動作をする場合があります。

Algorithm = 1 (1～) アルゴリズム

計算アルゴリズムのインデックスです。本ソフトではアルゴリズム 1 がデフォルトです。

<ドンチャンブレイクアウトのアルゴリズム>

1. ドンチャン・ブレイクアウト(順張り)

通常のドンチャンブレイクアウト。EntryN でエントリーを判定する HL チャンネルラインが

規定され、CloseNp で決済ラインが規定されます。

2. ドンチャン・ブレイクアウト(逆張り)

逆張りでエントリーします。例えば買いの場合、L チャンネルラインを下回ったところ(通常なら売りのブレイクアウト)でエントリーします。決済はアルゴリズム1と同じです。

3. ドンチャン・ブレイクアウト(逆張り、チャンネルオーバーで決済)

エントリーはアルゴリズム2と同じですが、反対のチャンネルラインを超えたところで決済します。

ResponseMode = 2(1 ~ 2)

エントリーやクローズ判定するタイミングを設定します。

1: Tick ベースでリアルタイムにブレイクアウトを判定します。

2: 足が更新されたときにブレイクアウトを判定します。

モード2を使うとバックテストに近い結果が得られます。通常はモード2(デフォルト)をお使いください。

SlipPage=30

スリップページ(pip)。カウントダウンの注文方式を採用する FX 会社では無効なパラメータです。

=== Fund Management ===

リスク管理に関する設定項目です。

RiskFactor = 20 リスクファクター

ユニットサイズを計算するための基準値。設定値の 1/10 が口座残高に対する%で、値が大きいほど多くの建玉がエントリーされハイリスクになります。20 日 ATR に相当する値動きが口座残高の 1%に相当するようロット数を自動調整します。このパラメータに基づいて計算されたロット数は取引画面に表示されます。

バーチャルモードのときはこの設定値は無視され、ロットサイズは10 に固定されます。

MaxDrawDown = 50000 (0～) トレードを停止するドローダウンの金額

取引を中止するドローダウンの金額(日本円)。

現在の損益もしくは口座残高が設定値に達すると新規の売買を停止します。この制限が有効になると、画面に

!!TradeStopped!!

と表示されます。

ドローダウンの制限は ResetStatus パラメータを True にした状態で MT4 をいったん終了して再起動すると解除されます。このときそれまでの累計損益もゼロにリセットされます。

バーチャルモード、最適化モードのときこの設定値は無効です。

0 にすると無制限になります。

注意:

- (1) トレード中の損益が設定値に達しても強制決済はしないので、最終的な決済損失が設定値を上回ることがあります。
- (2) ドローダウンはスワップポイントなどが考慮されない LastResult(実行画面の表示値)の累計値と比較されますので、実際の損益と多少の誤差を生じます。

CanEntryDIR (0～3) エントリーを許可する方向

エントリーを許可する方向を指定します。スワップポイントが不利な方向のエントリーを禁止できます。。禁止された方向の売買サインが出た場合は仮想取引を行います。仮想取引の決済損益は計算されず、累積損益にも加算されません。

- 0: 売り、買い 両方向の取引を許可します。
- 1: 買いのみエントリーを許可します。
- 2: 売り方向のエントリーを許可します。
- 3: 売り買い両方向のエントリーを禁止します。

仮想取引中は決済ラインラインがピンク色で表示され、建玉のステータスに「virtual」と表示されます。

ResetStatus (false) 成績データをリセットする

True にして MT4 を再起動するとトレード成績と損益の記憶値をゼロクリアします。仮想取引している場合は解除されます。

再起動後は false に戻しておいてください(戻し忘れると再起動するたびにゼロにリセットされてしまいます)。

ResetParam (false) パラメータをリセットする

True にして MT4 を再起動すると Weight の平均値を初期化します。再起動後は false に戻しておいてください(戻し忘れると再起動するたびにゼロにリセットされてしまいます)。

<ヒント>後述する ResetALLStatus を使うとすべてのチャートに対して一度に ResetParam を適用できます。

=== System Setting ===

Pair1 ペア通貨のシンボル

組合わせるペア通貨のシンボルを正確に与えます。取引している FX 会社の通貨ペア表示を参考に「EURUSD」「GBPJPY」「USDJPY」などと入力します。USDJPYpro など末尾に添え字 (pro, FFX など) が付く場合は省略してください (内部で自動的に補完されます)。

注: チャートのステータスが Waitting のままトレードが開始されない場合はこの設定が間違っている可能性があります。

RevF ペア通貨のエントリー方向フラグ

True: ペア通貨のエントリーをカレントチャートの逆方向にします。カレントチャートとペア通貨が正相関の場合この設定にします。

False: ペア通貨のエントリーをカレントチャートと正方向にします。カレントチャートとペア通貨が逆相関の場合この設定にします。

Weight 0 (0～) 2通貨間の変動補正率(%)

2通貨間の変動補正率を%で指定します。たとえば2通貨間の円評価額が同じであるとき、カレントシートがペア通貨に対して2倍の変動率がある場合は 200%、変動率が同じである場合 100% となります。

チャートに表示される「瞬時補正量」を参考に固定の数字を設定することができます。

0 を設定すると ATR をもとに計算された瞬時補正量の平均値が採用されます。これは建玉を持つと値が固定されますが、トレード中も平均を取り続け決済されると正しい値がプリセットされます。瞬時補正量と、現在の値はチャート上に表示されます。

EntryN =100 (1～) チャンネルラインの計算期間

ドンチャンブレイクアウトの H,L チャンネルを計算する期間 (足数) を設定します。

50～200 程度の範囲が適切で、この範囲を大きく逸脱する場合は時間足を変更するのが得策です。

CloseNp =50 (1～) 決済ラインの計算期間

クローズのチャンネルラインを計算する期間を設定します。入力値は EntryN に対するパーセンテージで示し、計算結果が CloseN となる。100 にすると EntryN=CloseN となります。

50～100 程度が標準です。

クローズラインはチャート上に赤線で表示されます。サヤが StopGain 以上のレンジを越えて利益方向に動いてから機能を開始します。

=== Stop & Limit Setting ===

実際にセットされるストップのレンジは、下記すべての最小値になります。

- (1) 決済ライン
- (2) StopGain による計算値

StopGain = 50 (0～)

クローズチャンネルのマージン。値は HL チャンネルバンドの幅に対するパーセントです。エントリーした価格より設定値のレンジを超えてから動作を開始します。

0 を設定すると 50 がプリセットされます。

=== Advanced Setting ===

より高度な設定項目です。

WeightAvgN=500

Weight 計算の平均期間。Weight=0(自動判定)のとき有効です。

ResetALLStatus=False

本ソフトで取引しているすべてのチャートに対し ResetParam を適用します。どれか一つのチャートで稼働中の GoldenTree について True にしたのち、MT4 を再起動してください。再起動後は必ず False に戻してください。

FixCurLot=1、FixPairLot=1

pip 計算の補正值です CFD では取引サーバーから得られる情報から計算した pip あたりの日本円計算が実際と合わない場合はその補正倍率を整数で与えます。FixCurLot はカレントチャートの補正值、FixPairLot は組み合わせる通貨ペアの補正值です。

=== Alerts&Log Setting ===

このカテゴリのパラメータは、バーチャルモード、最適化モードのときすべて無効で false に固定されます。

UseAlert=true

アラートの有効を切り替えます。true で有効。アラートは、エントリーしたとき、建玉をプログラムからクローズしたとき、注文が失敗したときに表示されます。

WriteLog=true

ログファイルの記録を切り替えます。true で記録します。ログファイル名をLogName で指定できます。

ログファイルはデフォルトで

C:\Program Files\<インストールフォルダ>\experts\files\
に格納されます。

SendEmail=false

アラートが発生したときその内容を指定アドレスにメール送信するか設定します。true で送信。
国内プロバイダの SMTP サーバはうまく機能しない場合がほとんどです。

LogName=GoldenTree

ログファイルの識別名を設定します。ファイル名として使えない文字を入力しないよう注意してください。実際のログファイルはこの設定値に通貨名やマジックナンバー、時間足、日付が追加されたものになります。

WriteLog が false のとき無効です。

=== Display Setting ===

実行画面の表示項目を設定します。「実行画面」の項もご参照ください。

ShowMaketInfo=true

建玉の様子、損益の表示を切り替えます。true で表示。

ShowParam=true

パラメータの表示(EntryN 数)を切り替えます。true で表示。

ShowRisk=true

カレントチャートとペア通貨の YEN/pip,ロットサイズ、Risk/day 表示を切り替えます。true で表示。

ShowPrice=true

サヤの位置、HL バンドの位置などの数字表示を切り替えます。true で表示。

DebugMode=false

プログラムデバッグ用の設定です。一般ユーザの方は false に設定していませんでください。

(付録2) エラーリスト

NO_ERROR	不明なエラー
NO_RESULT	結果が不明
COMMON_ERROR	共通エラー
INVALID_TRADE_PARAMETERS	無効なトレード変数
SERVER_BUSY	トレードサーバがビジー状態
OLD_VERSION	クライアント端末が古いバージョン
NO_CONNECTION	トレードサーバと接続できない
NOT_ENOUGH_RIGHTS	権限が無い
TOO_FREQUENT_REQUESTS	要求が多すぎる
MALFUNCTIONAL_TRADE	不適合な関数によってトレードがなされた
ACCOUNT_DISABLED	アカウント無効化
INVALID_ACCOUNT	無効なアカウント
TRADE_TIMEOUT	トレード時間切れ
INVALID_PRICE	無効な価格値
INVALID_STOPS	無効なストップ値
INVALID_TRADE_VOLUME	無効なロット数
MARKET_CLOSED	市場が閉じている
TRADE_DISABLED	トレード無効化
NOT_ENOUGH_MONEY	資金不足
PRICE_CHANGED	価格値変更
OFF_QUOTES	相場価格から離れている
BROKER_BUSY	仲介側がビジー状態
REQUOTE	再見積り
ORDER_LOCKED	注文がロックされた
LONG_POSITIONS_ONLY_ALLOWED	買いポジションだけ有効
TOO_MANY_REQUESTS	要求が多すぎる
TRADE_MODIFY_DENIED	市場が閉じている為、変更できない
TRADE_CONTEXT_BUSY	トレード状況がビジー状態
TRADE_EXPIRATION_DENIED	仲介側の契約が終了している
TRADE_TOO_MANY_ORDERS	オーダー数が仲介側の限度を超えている

NO_MQLERROR	プログラム実行時のエラー無し
WRONG_FUNCTION_POINTER	不正な関数ポインタ
ARRAY_INDEX_OUT_OF_RANGE	配列のサイズを超えたインデックス
NO_MEMORY_FOR_CALL_STACK	関数呼び出しのスタックメモリが無い
RECURSIVE_STACK_OVERFLOW	再帰的スタックオーバーフロー
NOT_ENOUGH_STACK_FOR_PARAM	変数のためのスタックメモリが十分ではない
NO_MEMORY_FOR_PARAM_STRING	文字列変数のメモリが無い
NO_MEMORY_FOR_TEMP_STRING	一時文字列のメモリが無い
NOT_INITIALIZED_STRING	初期化されていない文字列
NOT_INITIALIZED_ARRAYSTRING	配列中の初期化されていない文字列
NO_MEMORY_FOR_ARRAYSTRING	文字列配列用のメモリが無い
TOO_LONG_STRING	長すぎる文字列
REMAINDER_FROM_ZERO_DIVIDE	0で割った余り
ZERO_DIVIDE	0での除算
UNKNOWN_COMMAND	未知の命令
WRONG_JUMP	不正な変化（エラーは生成されていない）
NOT_INITIALIZED_ARRAY	配列が初期化されていない
DLL_CALLS_NOT_ALLOWED	DLLの呼び出しが許可されていない
CANNOT_LOAD_LIBRARY	ライブラリが読み込めない
CANNOT_CALL_FUNCTION	関数が呼び出せない
EXTERNAL_CALLS_NOT_ALLOWED	エキスパート関数の呼び出しが許可されていない
NO_MEMORY_FOR_RETURNED_STR	関数からの戻り値である一時文字列用のメモリが不足
SYSTEM_BUSY	システムがビジー状態（エラーは生成されていない）
INVALID_FUNCTION_PARAMSCNT	関数への引数が無効と見なされた
INVALID_FUNCTION_PARAMVALUE	関数への引数値が無効
STRING_FUNCTION_INTERNAL	文字列関数の内部エラー
SOME_ARRAY_ERROR	エラーのある配列がある
INCORRECT_SERIESARRAY_USING	正しくない系統配列が使われている
CUSTOM_INDICATOR_ERROR	カスタムインジケータエラー
INCOMPATIBLE_ARRAYS	配列の相互性がない
GLOBAL_VARIABLES_PROCESSING	グローバル変数の処理エラー
GLOBAL_VARIABLE_NOT_FOUND	グローバル変数が見つからない
FUNC_NOT_ALLOWED_IN_TESTING	テストモードで使えない関数を使った
FUNCTION_NOT_CONFIRMED	関数が確認できない
SEND_MAIL_ERROR	メール送信エラー
STRING_PARAMETER_EXPECTED	文字列変数を要求している
INTEGER_PARAMETER_EXPECTED	整数変数を要求している
DOUBLE_PARAMETER_EXPECTED	浮動小数変数を要求している
ARRAY_AS_PARAMETER_EXPECTED	配列型変数を要求している
HISTORY_WILL_UPDATED	更新状態から過去データを要求された
TRADE_ERROR	トレード関数においてエラーが生じた
END_OF_FILE	ファイルの終端
SOME_FILE_ERROR	ファイルエラーがある
WRONG_FILE_NAME	不正なファイル名
TOO_MANY_OPENED_FILES	ファイルを開きすぎ
CANNOT_OPEN_FILE	ファイルが開けない
INCOMPATIBLE_FILEACCESS	ファイルアクセスに相互性がない
NO_ORDER_SELECTED	注文が選択されていない
UNKNOWN_SYMBOL	未知の通貨
INVALID_PRICE_PARAM	不正な価格値
INVALID_TICKET	不正なチケット
TRADE_NOT_ALLOWED	トレードが許可されていない。(Allow live tradingがOFF)
LONGS_NOT_ALLOWED	エキスパートプロパティで買い注文が許可されていない。
SHORTS_NOT_ALLOWED	エキスパートプロパティで売り注文が許可されていない。
OBJECT_ALREADY_EXISTS	オブジェクトが既に有る
UNKNOWN_OBJECT_PROPERTY	未知のオブジェクトプロパティ
OBJECT_DOES_NOT_EXIST	オブジェクトが存在しない
UNKNOWN_OBJECT_TYPE	未知のオブジェクト型
NO_OBJECT_NAME	オブジェクト名がない
OBJECT_COORDINATES_ERROR	オブジェクトの座標エラー
NO_SPECIFIED_SUBWINDOW	指定されたウィンドウが無い
SOME_OBJECT_ERROR	オブジェクト関数内でエラーが起きた